

2018年3月期 第1四半期 決算説明資料

- 
- | | |
|------------|----------------|
| 1) 決算概要 | 6) トピックス |
| 2) 決算のポイント | 7) 減価償却費と研究開発費 |
| 3) 商品群別売上高 | 8) 上期・通期業績見通し |
| 4) 国内売上高 | [参考]商品群別売上高見通し |
| 5) 海外売上高 | |

日本光電工業株式会社

銘柄コード:6849

2017年8月2日

1) 決算概要

(単位: 百万円、単位未満切捨て)

	2017/3 第1四半期	2018/3 第1四半期	増減率 (%)
売上高	31,402	33,353	6.2
国内売上高	23,878	24,887	4.2
海外売上高	7,524	8,465	12.5
営業利益	△ 416	△ 219	—
経常利益	△ 1,472	158	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 1,086	16	—

為替影響除く: +14%

2017/3 Q1 2018/3 Q1
粗利率: 48.7% → 48.5%
販管費率: 50.0% → 49.2%

為替差損益: 差損12.9億円 → 差益1.0億円

平均レート	(2016/6)	(2017/6)
1ドル	112.8円	111.9円
1ユーロ	125.8円	121.9円

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

1

- 売上高は6.2%増の333億円となりました。
- 国内売上高は、4.2%増の248億円となりました。2017年4月に販売子会社11社を吸収合併して支社支店制に移行し、病院、診療所といった市場別の取り組みを強化しました。その結果、全ての商品群で売上を伸ばすことが出来ました。
- 海外売上高は、12.5%増の84億円となりました。現地通貨ベースでは、14%増加しました。現地販売・サービス体制の強化や生体情報モニタのラインアップ拡充が奏功し、米州、アジア州が好調に推移しました。
- 粗利率は、コストダウンが売価の下落を吸収したものの、在庫の評価減などが影響し、0.2ポイント低下しました。また、研究開発投資が3億9千万円増加するなど、販売管理費が全体で7億円増加しました。このため、前期に比べ損失幅は縮小しましたが、2億円の営業損失となりました。一方、為替が差益に転じたことから、経常利益は1億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は1千6百万円となりました。

2) 決算のポイント

売上高：前年同期比 6.2%増

- ・国内：支社支店制に移行。市場別の取り組みを強化した結果、全ての商品群で伸長。
- ・海外：現地販売・サービス体制の強化や生体情報モニタのラインアップ拡充が奏功し、米州、アジア州が伸長。

営業損失：219百万円（前年同期は416百万円の営業損失）

- ・販管費：研究開発投資等により増加。

経常利益：158百万円（前年同期は1,472百万円の経常損失）

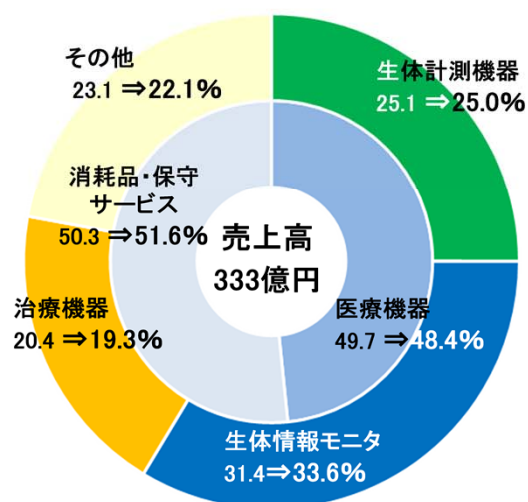
- ・為替差損益が差益に転じる。

3) 商品群別売上高

(単位:百万円)

	2017/3 第1四半期	2018/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	7,896	8,342	5.7
生体情報モニタ	9,862	11,217	13.7
治療機器	6,409	6,422	0.2
その他	7,235	7,370	1.9
売上高合計	31,402	33,353	6.2
(ご参考)			
消耗品・保守サービス	15,791	17,215	9.0

商品群別売上構成比
(2016/6 ⇒ 2017/6)



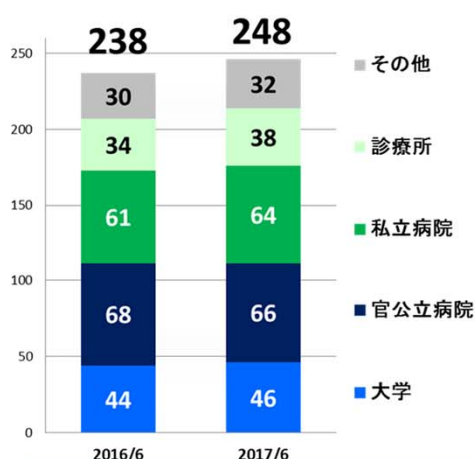
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

3

- 生体計測機器は5.7%増の83億円、
生体情報モニタは13.7%増の112億円、
治療機器は0.2%増の64億円、
その他は1.9%増の73億円となりました。
- 消耗品・保守サービスは9.0%増と好調に推移しました。消耗品・保守サービスの売上構成比率は51.6%に上昇しました。

4) 国内売上高

(億円) 【市場別売上高】



【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

	2017/3 第1四半期	2018/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	6,271	6,818	8.7
生体情報モニタ	6,693	6,943	3.7
治療機器	4,646	4,726	1.7
その他	6,266	6,398	2.1
売上高合計	23,878	24,887	4.2

【市場別】 診療所市場が好調に推移し、大学、私立病院市場も堅調に推移。官公立病院市場は前年同期を下回る。

【商品群別】 生体計測機器: 脳神経系群は前年同期を下回るも、診断情報システム、心臓カテーテル検査装置群が好調に推移。心電計群も前年同期を上回る。

生体情報モニタ: 臨床情報システム、センサ等の消耗品が好調に推移。

治療機器: 除細動器、人工呼吸器が好調に推移。AEDも前年同期を上回る。

その他: 検体検査装置が好調に推移。

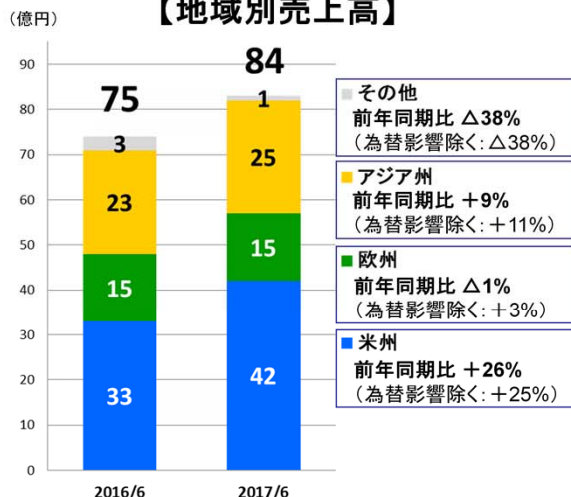
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

4

- 国内売上高は10億円増の248億円となりました。
- 診療所市場が好調に推移し、大学、私立病院も堅調に推移しました。一方、官公立病院市場は、厳しい経営環境を受けて設備投資に慎重な姿勢が見られ、前期を下回りました。
- 前第1四半期は2016年4月の営業組織再編に時間がかかったこともあり、スロースタートでしたが、当第1四半期は期初から営業活動に注力できたことが、堅調な売上成長につながっています。
- 生体計測機器では、脳神経系群は前期を下回りましたが、診断情報システムが更新需要により好調に推移しました。心臓カテーテル検査装置群も電極カテーテルを中心に好調に推移し、心電計群も新商品効果で増収となりました。
- 生体情報モニタでは、臨床情報システム、センサ等の消耗品が好調に推移しました。
- 治療機器では、除細動器、人工呼吸器が好調に推移しました。AEDはパッドやバッテリーといった消耗品が好調に推移したことから、増収となりました。
- その他では、検体検査装置が診療所市場を中心に好調に推移しました。

5) 海外売上高

【地域別売上高】



【海外売上高比率】

2017/3 第1四半期	2018/3 第1四半期
24.0%	25.4%

【商品群別売上高】

(単位: 百万円)

	2017/3 第1四半期	2018/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	1,624	1,524	△ 6.2
生体情報モニタ	3,168	4,273	34.9
治療機器	1,763	1,695	△ 3.8
その他	968	972	0.4
売上高合計	7,524	8,465	12.5

為替影響除く: +14%

- 【地域別】 米州: 米国では前期からの期ずれにより生体情報モニタが大幅に伸長。中南米も、ブラジルを中心に好調に推移。
欧州: 販売網の強化によりドイツは好調に推移するも、イタリアが低調。
アジア州: 韓国が好調に推移。インドは物品サービス税の7月導入に伴う駆け込み需要もあり大幅に伸長。
- 【商品群別】 生体計測機器: 脳神経系群は欧州、アジア州で好調に推移するも、心電計群が米州、アジア州で低調。
生体情報モニタ: 米州、欧州、アジア州で好調に推移。
治療機器: 除細動器はアジア州で好調に推移するも、AEDが全ての地域で低調。
その他: 血球計数器はアジア州で低調に推移するも、現地仕入品が前年同期を上回る。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

5

- 海外売上高は9億円増の84億円、現地通貨ベースでは14%増加しました。海外売上高比率は25.4%となりました。
- 米州では、米国は、前期末に受注した生体情報モニタの商談の出荷もあり、大幅に伸長しました。中南米は、現地販売・サービス体制の強化を進めるブラジルを中心に好調に推移しました。
- 欧州では、ドイツは前下期に開始した代理店政策が奏功し、好調に推移しました。一方、イタリアは、生体情報モニタなどは好調でしたが、AEDの出荷遅れが影響し、減収となりました。
- アジア州では、韓国が好調に推移したほか、インドが物品サービス税の7月導入に伴う駆け込み需要もあり、大幅に伸長しました。インドにつきましては、税制変更の対応もあるため、第2四半期に反動があると見ています。中国は現地通貨ベースでは一桁前半の増収となりました。なお、中国は12月決算であり、上期は現地通貨ベースで一桁半ばの増収、円ベースで減収の見通しです。
- AEDの出荷遅れは、第2四半期に解消する見通しです。

6)トピックス

第1四半期の 主な新商品

CO₂関連品 内視鏡時の医療安全をサポート

cap-ONEバイトブロック

- ・上部内視鏡時に開口状態を保持したまま、酸素投与できるマウスピース
- ・CO₂センサと組み合わせることで、鎮静下内視鏡時のCO₂測定が可能
- ・鎮静薬の副作用である呼吸抑制の予防に期待

cap-ONE
ORAL NASAL EXPIRATION



ビデオ硬性挿管用 喉頭鏡事業を譲受

救急救命市場・麻酔科市場 の製品ラインアップを強化

- ・HOYAサービスと事業譲渡契約締結 (2017年7月)
- ・2017年9月事業譲渡(予定)
- ・生体情報モニタ、除細動器との相乗効果を期待

エアウェイスコープ AWS-S200

モニタ画面を見ながら、
スムーズな気管挿管が可能



© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

6

- 新商品としては、cap-ONEバイトブロックを発売しました。内視鏡検査では、患者さんの苦痛を和らげるために鎮静薬を使用しますが、呼吸抑制といった副作用があります。予防策としてCO₂をモニタリングする必要性が高まっていることから、開発しました。CO₂センサメーカーである当社ならではの開発と考えています。CO₂センサは消耗品事業の拡大につながるため、新商品の寄与を期待しています。
- 7月28日に発表しましたとおり、HOYAサービスからビデオ硬性挿管用喉頭鏡事業を取得する予定です。当社は、元々、エアウェイスコープを国内で独占販売しており、救急救命市場、麻酔科市場での自社製品との相乗効果が期待できることから、今回の事業譲受に至りました。今後は、新商品の開発、海外への展開により、事業の拡大を目指してまいります。

7) 減価償却費と研究開発費

(単位: 百万円)

	2017/3 第1四半期	2018/3 第1四半期	増減額	2017/3 実績	2018/3 計画
減 価 償 却 費	733	770	36	3,422	3,900
研 究 開 発 費	1,242	1,633	391	6,466	7,300
設備投資額				7,710	5,700

【2018/3期設備投資計画】

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備、西落合事業所改修工事10億円

- 減価償却費は前期並みの7.7億円となりました。計画どおりの進捗です。
- 研究開発費は3.9億円増の16.3億円となりました。生体情報モニタなどの新商品開発が順調に進んでおり、若干早い進捗となっています。
- 通期の減価償却費は39億円、研究開発費は73億円、設備投資は57億円で変更ございません。
- 主な設備投資計画としては、本社西落合事業所の改修工事10億円がございます。

8) 上期・通期業績見通し

(単位: 億円)

	2017/3 実績		2018/3 予想			
	上期	通期	上期	増減率 (%)	通期	増減率 (%)
売上高	744	1,662	780	4.7	1,750	5.2
国内売上高	558	1,247	—	—	1,280	2.6
海外売上高	185	415	—	—	470	13.2
営業利益	38	135	39	1.7	150	10.4
経常利益	26	140	39	45.0	150	6.7
親会社株主に帰属する 当期純利益	16	91	25	48.5	102	11.5
海外売上高比率 25.0% 25.0% 26.9%						
平均レート						
1ドル	107.6円	109.2円	110円			
1ユーロ	119.9円	119.3円	115円			

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

8

- 第1四半期の実績は概ね計画どおりに進捗しており、上期および通期の業績予想に変更はございません。
- 上期売上高は、780億円を見込んでいます。
- 国内は、上期の売上高は一桁前半の増収となる見通しです。引き続き、市場別の販売活動に取り組むものの、前第2四半期が診療報酬改定の対応で生体情報モニタの需要が高かったため、その反動を見込んでいます。
- 海外は、上期の売上高は10数%の増収となる見通しです。地域別では、米州、欧州で二桁成長を見込んでいますが、アジア州は微増の見通しです。
- 粗利率は、前期よりやや改善し、第1四半期と同水準の48.5%前後となる見通しです。販売管理費につきましては、研究開発投資の進捗が早いことから、期初の想定よりも増える可能性があります。粗利率の改善で販管費の伸びを吸収し、上期の営業利益39億円を確保したいと考えています。

[参考]商品群別売上高見通し

(単位:百万円)

	2017/3 実績	2018/3 予想	構成比(%)	増減率 (%)
生体計測機器	37,658	39,800	22.7	5.7
生体情報モニタ	56,117	59,100	33.8	5.3
治療機器	29,728	31,200	17.8	5.0
その他	42,781	44,900	25.7	5.0
売上高合計	166,285	175,000	100.0	5.2
(ご参考)				
消耗品・保守サービス	71,180	75,100	42.9	5.5

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

9

- 通期の商品群別の売上高予想につきましても、変更ございません。
- 上期につきましては、生体情報モニタが、国内外ともに、期初の予想よりも順調に推移する見通しです。



この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。

従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

【担当部署】経営戦略部

【連絡先】TEL03-5996-8003